

## 令和2年度 第1回弘前市立博物館協議会会議録（要旨）

日 時 令和2年11月14日（土） 午後2時05分開始 3時55分終了  
場 所 弘前市民会館 2階 第1・2小会議室  
出席者 葛西 徹 委員長（議長） 島内 智秋 副委員長  
小嶋 義憲 委員 瀧本 壽史 委員  
齋藤 昭 委員 佐々木康之 委員（6名）  
欠席者 北原かな子 委員 出 佳奈子 委員（2名）  
事務局 館長 成田 正彦 館長補佐 佐藤 孝子 主事兼学芸員 齋藤明日美  
(3名)

---

### 令和2年度第1回弘前市立博物館協議会

- 1 開会
  - 2 委嘱状交付
  - 3 教育長挨拶
  - 4 職員紹介
  - 5 組織会
  - 6 案件
    - (1) 令和元年度事業報告について
    - (2) 令和2年度事業計画並びに経過報告について
    - (3) 令和3年度事業計画について
    - (4) その他
  - 7 閉会
- 

#### 1 開 会

#### 2 委嘱状交付

吉田健教育長から、小嶋義憲委員、島内智秋委員、葛西徹委員、瀧本壽史委員、齋藤昭委員、佐々木康之委員に対し、委嘱状を交付。

#### 3 教育長挨拶

#### 4 職員紹介

#### 5 組織会

委員の互選により、委員長は葛西徹委員、副委員長は島内智秋委員に決定。

#### 6 案 件

議長 令和2年度第1回弘前市立博物館協議会を開催いたします。

本日の委員の出席者数は6名で、弘前市立博物館管理運営規則第3条第3項により会議は成立します。

では、案件の審議に入ります。(1) 令和元年度事業報告について、事務局より説明をお願いします。

**事務局** 【配付資料に基づき、事務局より説明】

**議長** 質問や意見がありましたら、お願いします。

私から質問ですが、収蔵スペースに空きはあるのでしょうか。

**事務局** 現在、収蔵庫内の資料の整理を進めておりますが、余裕はなく、寄贈のお話がありましても、類似の資料がある場合はお断りしている状況です。

民具などは、博物館ではなく、廃校の教室を利用し保管してスペースの確保をしています。

**小嶋委員** 甲冑や刀剣類は、高岡の森弘前藩歴史館に収蔵していますか。

**事務局** 刀剣類についてはすべてではありませんが、歴史館に集約するというので、博物館からは移管しております。

**瀧本委員** 県立郷土館も収蔵する場所がなく、寄贈そのものを断っているようです。まだまだ眠っているものがたくさんあると思うので、調査は続けていく必要があります。

学校の空き教室を利用して、子どもたちが学校にいながらいつでも見れるようにしたらどうでしょうか。管理の問題はあると思いますが、出前講座のように持っていく、出かけて行くだけでなく、置いておくという展示や保管に協力してもらえる学校があれば、広い意味でひろさき亓学の一環としてやれると思います。複数ある資料であれば、学校への貸し出しも考えられるのではとまっているところです。実際、現場でできるものでしょうか。

**齋藤委員** 前任校の岩木小学校には空き教室がたくさんありましたので、その1つを「思い出室」という名称で古い資料や統合した学校の資料などを保管していた教室がありました。管理面では鍵をかけていました。4年生の昔のくらしの勉強の時は思い出室で学習していました。

**小嶋委員** 今、児童生徒数の減少が続いているので、大抵の学校には空き教室はあると思うが、問題は管理だと思います。活用できるものは活用した方がいいのと同時に、せっかく思いのある品物を持参しても断ることがあり、切ない経験があります。

**事務局** 民具関係のものは旧岩木町、旧相馬村にも同じものがたくさんありますが、それをしっかり保管できない状況が今も続いています。空き教室に展示保管して子どもたちに見せたいと思い、計画したことがありましたが、その時に課題になるのが管理をしっかりやって行けるのか、ということでありました。現在、廃校になった教室を2部屋使って保管しておりますが、それを子どもたちに昔の農作業に使った道具だと見せたい思いはありますが、その都度持っていくのが正直大変です。学校に置ければ管理も学校と連携してやればいいのかと思っています。

**議長** 現実的に難しくても発展的な貴重なご意見だったと思います。将来的に方向性を教育委員会全体で考えていただければと思います。

**瀧本委員** 確かに管理の問題はありますが、子どもたちが触って壊したのならいいのではな

いでしょうか。学校に寄贈するときに管理はお任せするという考えでいいと思います。活用した結果、破損したり消耗したりしたことについて、よく使ってくれたねと価値観を変えていけば今あるものを持って行って活用してもらえないのでしょうか。基準は必要ですが、現場が使いやすい基準でいいと思います。

**小嶋委員** 賛成です。私もそう思います。

**島内委員** 今のお話を校長会で話をして共通理解をして進めていくのがいいと思います。更には、寄贈した方を子どもたちに出会わせて、その物に対する思いなどをお話していただくと子どもたちは大事にするのではないかと思います。

**議長** 収蔵物に関するだけでなく、教育現場との連携に関することや他にも何かありましたらお願いします。

**小嶋委員** 今年度の特別企画展「パリの見た夢」の初日の解説が素晴らしく、録画して音声だけでも撮って流すなどしてもいいと思いました。

**島内委員** 刊行物について、博物館と後援会と共同製作とありますが、経費の割合と、1冊当たりの制作経費はいくらか、相見積もりは何件から取っているのかを教えてください。

**事務局** 後援会との役割分担ですが、基本的に原稿の作成、編集、校正は博物館が担当し、印刷の経費は全額後援会が負担しておりまして、後援会の事業の1つとして位置づけられております。販売価格は、印刷価格から少しは黒字になるような価格設定をしております。業者の選定については実績のある1者で行っております。

**島内委員** わかりました。

**佐々木委員** 売上げはどのくらいありますか。

**事務局** 売上げは度外視と言いますか、購入したものは有効に使っていく、ある分を売っていくという形です。

郷土歴史シリーズのvo13は、初版600部は即完売し、2万部追加作成したものはかなり印刷単価が抑えられていて、今も少しずつ売れていますので、売れただけ後援会の収入が増えていくという状況です。

**議長** ほかに令和元年度事業について質問、意見ありませんでしょうか。なければ案件(2)「令和2年度事業計画並びに経過報告について」、事務局より説明をお願いします。

**事務局** **【配付資料に基づき、事務局より説明】**

**議長** ただいまの説明について、質問や意見がありましたらお願いします。

コロナの影響で大変だったと思いますが、その中でやるべきことはしっかりやられているという印象ですが。

**小嶋委員** 開催されなかった特別企画展1「歌川広重」展について、再度の開催予定は無いのでしょうか。

**事務局** 予算上、年度ごとになっておりますので基本的には中止ですが、どこかの時点では開催する方向で調整しているところです。

**小嶋委員** 企画展2の「弘前ねぷた展～節堂と龍峽の世界～」を見ましたが、2人ともきちんとした正当な日本画家ですね。このような素晴らしい先人たちがいたから現代の

ねぶたに繋がったのだと思います。残念だったのが、以前見たことがある龍峡の襖絵の展示が無かったことです。劣化が激しかったことを担当学芸員から聞きましたが、個人が所有するのは難しいということだと思います。学校で持っている素晴らしい絵などは、調査してチェックする必要があると思います。

**議長**

学校に正しい保存の方法を指導してはどうですか。

**事務局**

教えることは可能だと思いますが、きちんと保存していくにはある程度の設備とお金はかかります。

寄贈される方は子どもたちが学校で見れるようにして飾ってほしい要望はあると思いますので、寄贈目的と資料保存の整合性をいかにとるかが難しい点です。

**瀧本委員**

博物館は1年間で企画展を5本開催していますが、これは学芸員にとって大変な量、負担になっていると思います。今年は1本中止になり、ちょうどよかったのではないのでしょうか。この点について学芸員自身はどう思っていますか。

それから、歴史講座を今年度は4回予定されていますが、万が一新型コロナウイルスの影響で開催できなくなった場合を想定してオンラインでやる方法を考えていますか。

**事務局**

中止になってしまった「歌川広重」展の期間中に当館所蔵の文書などの整理を進めることができたことは良かったですし、学芸員としてはありがたいことだと思います。次の企画にすぐつながるものではありませんが、そのような知識の蓄積が長い目で博物館を運営していく力になっていくのではないかと思います。ただ、同じ展覧会が長引くとどうしてもお客様から次の展示のご要望がありますので、会期と職員の負担のバランスを考えていかなければならないと思います。

今年度は学芸員が本来、4名の配置のところ、再任用職員を含めて3名の学芸員の配置になっておりまして、4名の体制で年間5本の企画展を開催していきたいのが正直なところです。

今年度の次の企画展が3月までの長期間となっていますが、それでもお客様から長過ぎるなど様々なご意見をいただきます。特別企画展は巡回展で、期間がどうしても短いということもあり年4回だと他のものが長くなってしまいますのでうまく調整しながら学芸員の負担も考えながらやっていきたいと考えております。

歴史講座のオンラインの件ですが、その設備がないということもありますが、基本的に歴史講座はお客様に博物館に来ていただいて開催するという形で進めてまいります。

**瀧本委員**

歴史講座のオンラインは、集まらなくてもビデオに撮って配信することはできると考えています。無観客でやるなどよくやられていますし、昨年度の歴史講座は5回中、最後が中止となったことから第5回の分がそういう形でもできれば良かったのかなと思っています。

弘前市の博物館は、常設展が非常に充実していて他の博物館と比べても見劣りしませんし、常設展の更なる充実も含めて学芸員の資料整理や研究に費やす時間や市内を回ってお宝を探して歩く時間などに使っていただければ、もっと博物館の基盤ができていくのではないのかと思っています。

議長 次に、(3)「令和3年度事業計画について」事務局の説明を求めます。事務局の説明をお願いします。

事務局 **【配付資料に基づき、事務局より説明】**

議長 令和3年度事業計画について、質問や意見がありましたら、お願いします。

今期から委員になられた齋藤さん、何かありますでしょうか。

齋藤委員 では、持参した資料の説明をさせていただいてよろしいでしょうか。

1 枚目は新しくなった学習指導要領において公共施設の利用について述べられている箇所を抜粋したものです。これからの教育活動は公共施設を積極的に活用することを促しているということです。

次の資料は、昨年度の2年生の学級通信で、「殿さまのくらし」展に見学に来た時のものです。子どもたちの様子を保護者に知らせるといことが大きな役割ですが、保護者への啓蒙という点でも大切な役割があります。

次の資料は、私自身が考える「本物の持つ力」について、5年生と一緒に校外学習に出かけた時の学校通信です。藤田記念庭園の昔の歪みのあるガラスを見た時や水琴窟の音などは、その場でなければ感じるできないものと思っております。

次の資料は、文部科学省が月刊で出している雑誌資料ですが、地域の公共施設を活用した教育活動の推進という特集をコピーしたものです。私が印象に残ったところは小さい時に博物館を訪れた子どもというのは、両親にまた行ってみたいとお話しすると。また、どこかに家族で出かけた時もその土地の博物館に行ってみたいと思うのだそうです。その子どもが大人になった時に自分の子どもを博物館に連れて行ったりするという追跡調査が行われたことが書かれています。

弘前市内に小学校は35校ありますが、朝陽小学校のように歩いて15分の所に博物館があれば、いつでも行くことができますが、そうでない学校の方が多いわけで、市教委の方で議会バスを出していただいていることは大変ありがたいと思っております。我々が考えていなくてはならないことは、社会見学や全校遠足で出かけた時に、その日程にプラスアルファをどう組み入れるかということです。出かけた時にもう1つうまく組み込めないかと考えていけばいいのではないかと思います。

本校は、春の段階で博物館の年間の展示スケジュールを先生方に示しております。いつどのような展示が行われているか学校で把握しておけば日程に組み込めるのではないかと思います。

お宝出張については、とても良い企画だと思っております。今までは、県立郷土館から来ていただいていましたが、これからは市の博物館から来ていただけということで大変ありがたいと思っております。そこで大事なことは先生方が子どもたちに何を見せたいのかを博物館とうまく擦り合わせる必要があると考えております。

最後に、見学するときは事前の打ち合わせが非常に重要だと思っております。博物館に連れてきたときにすべてお任せするというのは全くダメなわけで、9月に弘前れんが倉庫美術館に見学に行きましたが、その様子を見ていた時にここは子どもたちに感じさせる時間なんだとか、ここは説明していただきたいとかそういうことをすごく感じました。最初に説明されると子どもたちは素直なのでそういうもの

なのかと思ってしまうので、最初は説明なしで子どもたちに感じさせる時間が必要でないかと思いました。そういうところは教育現場と博物館との打ち合わせをしっかりとやっていかないといけないとつくづく感じました。

子どもたちにはいろいろな可能性があります。ですから小さい時に文学や美術、建築、歴史、自然などいろいろなものに触れさせることが教育現場に求められているのではないかなと思っております。殿さまのくらしの企画展を見た時に、お菓子に興味を持った子、殿さまの歴史に興味を持った子、博物館の建築に興味を持った子など様々な子どもたちがいましたので、先ほども展示物を学校で保管するなどの話がありましたが、博物館と校長会がどんどん話し合っ、連携を取りながらこれから進めていければと思っております。

質問ですが、土曜日の親子の無料の件ですが、どのように周知していましたか。

**事務局** 親子鑑賞会について、例年特別企画展の際にチラシを配布していたのですが、今年に関してはコロナウイルスの影響で実施しませんでした。ホームページの中に載せているだけで、特に広報ひろさきに掲載するなどPRはできていない状況です。

**齋藤委員** 毎週土曜日の午前中は、保護者も無料になることを今日、初めて知りました。これは各学校に周知した方がいいと思います。

**議長** 大変貴重な資料とお話ありがとうございました。

佐々木さんはいかがでしょう。

**佐々木委員** 学芸員さんにお聞きします。私は現在、旧弘前偕行社でガイドをしておりますが、博物館では小学生、中学生、大人と説明を分けているのでしょうか。

**事務局** 基本的には学校さんになりますと、学年によって歴史や美術に関する知識が違いますので、今、どの程度まで勉強しているのかなど申し込みをいただいた時あるいはその場で確認をしたうえで解説をさせていただいております。子どもさんはリアクションが素直に現れますので、お話をするようにコミュニケーションをとりながら解説の内容の難易度は子どもたちに合わせながら行っております。

今年度は開催しておりませんが、親子鑑賞会の時には子供さんの年齢層がかなり幅広いので、なるべく小さい方に合わせた内容でということをお話しております。

**佐々木委員** 旧弘前偕行社には保育園児が来たりしますので、どうわかりやすく話したらいいか苦戦しています。ポカンとされるとショックを受けて、次のガイドに影響があったりします。

大人の方でも何を目的に来館したのか、建物なのか、歴史なのか、話をしながらそのお客様の目的を探りながらになります。また、お客様の中にはしゃべりたい人がいまして、こちらが聞き役になってしまっただけ一緒に歩いて終わった方もいました。

もう1点ですが、弘前市内の小中学生の人数が減ってきている中で、私は大鰐町の出身ですが、近隣の市町村の学校にも声がけをしているのでしょうか。

**事務局** 学校関係は弘前市内になりますが、ポスターなどは近隣の市町村に配布しています。それを見て、多くはないですがご来館していただいております。

**佐々木委員** 同級生のほとんどは弘前市民になっていますが、学生当時に来ていればよかったという声がありましたので、近隣の市町村にも声がけしていただければ来やすいのかなと思いました。

**議長** 令和3年度の事業計画について他にありませんか。

**瀧本委員** 齋藤委員から話がありました博物館と学校との連携については、学校、博物館両方の側の視点を持たなければならないと思います。今お話しいただいた視点を博物館でどのように考えていくかが大事なことだと考えます。

例えば博物館に弘前市で使っている小中学校の教科書を置いてますか。

**事務局** ありません。

**瀧本委員** 多分無いと思います。今年、小学校の教科書が変わりました。来年は中学校が変わるといことで、博物館は小中学校の教科書を必要図書として全部そろえて見ておいて、小中学生の見学に備えた方がいいと思います。

もう1つは、博物館の見学についてです。館内の説明だけでなく、外に出て弘前公園の中にある博物館としてお城や櫓や土塁なども含めた解説をするととても印象に残ると思います。「絵図で見る弘前城のうつりかわり」のような本が出ているわけですから、これを活用した解説だと弘前市立博物館独自のものになっていくのではないかと思います。

**小嶋委員** 瀧本委員のご意見に私も賛成です。絵図だけではなく、実際の城郭を見ながら、津軽の歴史に関する解説も織り交ぜながら博物館としての見学という企画を充実させていければいいと思います。ただし、そのための人員が必要ではあります。

**事務局** 弘前公園の中にある博物館としてそのような取り組みができればいいと思いますが、情報館など公園緑地課で対応している部分もありますので、うまく連携を取りながらやればい取り組みだと思えます。

また、今年度の博物館実習で、弘前公園の中にある博物館として弘前城のことも勉強しましょうということで、石垣のことを公園緑地課の職員に説明してもらいました。

イベントとして、この日は弘前公園も案内しますという取り組みができればいいと思います。

**議長** 案件(4)のその他について、事務局から何かありますか。

**事務局** いえ、ございません。

**議長** それでは委員の方からご意見などありましたらお願いします。

私からですが、先日博物館に来た時に、博物館はなぜ迷路のようにになっているのか、と聞かれたことに対して、あれは枳形なんですよ、と答えました。

初代博物館長の羽場徳蔵さんもおっしゃっていましたが、この建物は玄関からして枳形なんですよ。意外にまだ知られていないことがあると思いますのでそういうことを掘り起こしていくのもよろしいのではないのでしょうか。

それでは以上をもちまして令和2年度第1回弘前市立博物館協議会を終了いたします。ご協力ありがとうございました。

**事務局** 委員の皆さま長時間に渡りご意見をいただきましてありがとうございました。なお、委員名簿と本日の会議の会議録につきましては、市ホームページに掲載されますので、ご承知置きください。

---